

月刊 民族学 4月号

2025

特集

文化は誰のもの？

インタビュー 関雄二新館長に聞く

巻頭エッセイ 下田 昌克

本物にゾワゾワ

しもだ まさかつ
下田 昌克

イラストレーター・画家

手

で作られたものには何かが宿っていると信じている。

言葉にすると恥ずかしいのだが、自分の手で何かを描いたり、作ったりするという行為は、とても大げさに言ってしまうと、命のような何かを吹き込んで、宿らせることだと思いついて作っている。

物欲もきつと人並み以上にあるので、海外旅行に行く時なんかは常に何かを手に入れる気は満々。しかもびつくりするものを見つけたらその瞬間の勢いで考える暇なく買ってしまう習性があるので、最近はずいぶん「びつくりした時は、まず何にびつくりしたのかを教えてね」と躡けられている。それでもいざ本物らしき、それこそ何かが宿っているような気がしてしまうものを目にしてしまうと、ビビって買うのを躊躇してしまうのだ。

もうずっと以前のことだが、アフリカのマリ共和国に行った時も、ドゴン族の仮面とかもう興味津々で、ものすごいかわいい仮面を手に入れてくる気満々であった。

まずは土産物屋に並ぶ、手ごろで安全なものから目にする。移動とともに、だんだん奥深く、だんだ



ん本物の気配の仮面に近づいてくると、やはり何かゾワゾワしてくるものがある。

とうとう、本物らしき気配を放つものを目の当たりにすると、それはもう、恐ろしく美しく、かつこいのであるが、くり抜かれた目の穴の闇の向こうに、こつちを見据える鋭い眼球が現れてきそうな気がして、連れて帰るなんてとても責任が持てない。

まあ、どこへ行っても多かれ少なかれそんな感じ。結局買って帰るものといえば、選びに選び抜いたマグネットや、大量に作られて並んでいるものの中から表情や目の輝きなど、自分の思ういけばんチャミングな一体を安い値段で買って帰る。結局家には価値などあまりないガラクタばかりがどんどん溜まっていく。

とても個人で責任が持てない本物は僕は所有せず、そこは全てみんなばくにお任せして、人の手で作られた、きつといろんなものが宿っているであろうたくさんの展示物を、物欲を燃え上げながら鑑賞するのが僕にはちょうどいいのだろう。

夜、照明の消えた博物館の闇の中で、展示物がささやきあつたりしているのを想像しながら。

プロフィール

1967年兵庫県生まれ。おもな著書に、1994年から2年間、世界各国を旅行し、出会った人びとを描いた絵と日記をまとめた『PRIVATE WORLD』(山と溪谷社)、『恐竜人間』(PARCO出版)。谷川俊太郎との共著『恐竜がいた』、『ハダカだから』(スイッチ・パブリッシング)。絵本『死んだかいぞく』(ポプラ社)など。2011年より帆布を縫って恐竜のヘッドピースを作っている。

月刊 みんなばく

2025年 4月号

表紙

「印章神官の墓」の発掘の様子
(ペルー カハマルカ ラ・カビーヤ遺跡、2023年)

- 1 巻頭エッセイ
本物にゾワゾワ
下田 昌克

特集 文化は誰のもの？

- 2 インタビュー
関雄二新館長に聞く
- 9 もっと知りたい！
関雄二新館長への55の質問
- 10 パコパンバ考古学プロジェクト20周年
パコパンバ遺跡の20年とこれから
- 12 みんなばく回覧板

- 14 押しコシ図鑑
「幽霊」仮面！
井上 真史
- 16 もっと、みんなばく
ミンバク オッタ カムイノミ
マーク・ウィンチェスター
- 17 世界の「乗っちゃえ！」
ブータンで馬上の人となる
宮本 万里
- 18 だって調査だもの
祖霊によるしく
西田 昌之
- 20 ばくっ！とフィルめし
対馬のアレンジまかない飯
田中 瑠莉
- 21 今月号の地図・編集後記

*本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

特集 文化は誰のもの？

この四月に新しく就任した関雄二館長
ペルー高地の村落で 土地の文化を身にまとい
土中の文化を探りあて 未来の文化へとつなぐ
バリバリの現役アンデス考古学者
ズバリ！ 世界の文化研究で直面する問題とは



かしのが まさお
榎永 真佐夫
国立民族学博物館 教授
月刊みんぱく 編集長

せき ゆうじ
関雄二
国立民族学博物館 館長

22歳のころ。ライソソ遺跡にて(ペルー ワカロマ、1979年)



ちはそれから何か月後に種まきをした。天候の目安となる星だから、その星が出る方向に建築の軸を作った。一六ヘクタールほどの遺跡群を全部整備している。相当な天文知識と建築技術をもっていたのでしょう。
榎永 なぜそのような神殿を造ったのですか？
関 アンデスの場合は文字がなかったから、宗教やイデオロギーを物質化するの文字や書物ではない。巨大な建物を建てるのがとても大事だった。

や信仰を可視化するのですね。
クントウル・ワシの成果とフワニータのミイラ
榎永 関さんがアンデスで発掘調査をはじめたのはいつからですか？
関 東大調査団員として四六年前から。最初に掘ったのがワカロマ遺跡。ここを一〇年ぐらい手がけたあとにクントウル・ワシ遺跡を掘りました。
榎永 日本でも有名な遺跡ですね。
関 その大きな成果は、一〇基近い墓を発見したこと。いわゆるブーツ型の墓で、つま先の部分に墓室がある。おそらくアンデス史上初めて研究者が見つけた金の副葬品をともなう埋葬墓がこれ。盗掘者の方がいっも早くに見つけたわけだ(笑)。
クントウル・ワシには調査団が博物館を建てて、出土したすべての金製品を収蔵しています。ペルーは国による遺跡管理以外は基本的には認めないけれども、クントウル・ワシ博物館の場合は建てた後で国に追認してもらうことができた。

榎永 そんなふうには文化行政が柔軟だったのはいつぐらいの時期ですか？
関 二〇〇〇年ぐらいまで。フジモリ政権の最後ぐらいまでかな。
榎永 特に九〇年代って世界的に規制緩和の時期だったのかな。

アンデスの神殿と昴

関 榎永さんと話すといつもボクシングか釣りか磐座(注1)の話ばかりになるね(笑)。基本的にはアンデスも石の文化……
榎永 石の文化の話から伺いましょう(笑)。

関 ペルーの遺跡では、自然の岩の露頭を囲むようにして神殿ができてたりするんだよ。
榎永 日本の磐座みたいですね。なぜその岩だったのでしょうか？
関 実際の山が後ろにあって、岩にその山をそのままうっし込む見立てでもあるんだけど。山に形状が似てる岩を神域のなかに取り込んで、山が自分のところにあるような感じになる。

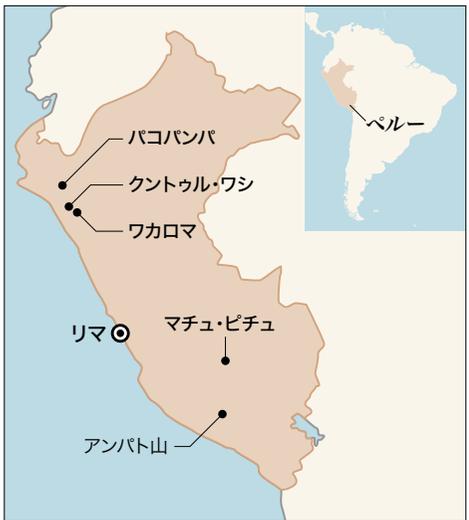
榎永 へえ、おもしろいですね。景観のミニチュアみたい。それっていつごろまで遡れそうですか？
関 山を見立てたりすること自体は紀元前三〇〇〇年まで遡るかな。現在、発掘調査をしているパコバンパ村の紀元前一二〇〇〜四〇〇年ころの遺跡でも、特殊な形状を呈した山を基軸に建築を造っていたりするから。自然の地形への関心がとても高いことがわかるよね。

太陽の運行もかなり気にしてるね。
榎永 赤道に近いから夜空の低いところですね。
関 昴が見えると雨が降り始めることがわかる。古代アンデスの農民た



パコバンパ遺跡(ペルー パコバンパ、2024年、Alvaro Uematsu撮影)

ずつとあとになるけどインカの時代では春分秋分の太陽の位置を、建物の窓から差し込む光の角度から割り出して。春分の時期に自然の岩の少しとんがったところに光が当たるように窓の位置を作ったりしていた。
パコバンパ村のもっと古い神殿では昴、プレアデス星団ですね。南米だと六月ぐらいに山の端から昴が出てくる。それまでは引っ込んでいて見えないんだけど。
榎永 赤道に近いから夜空の低いところですね。
関 昴が見えると雨が降り始めることがわかる。古代アンデスの農民た



僕が調査しているベトナムなどの社会主義国は冷戦終結後、一気に市場経済化しました。新しい社会のカタチが見えてくるまでの九〇年代は混沌とした時期で、いろんなものが先にやったもん勝ちという面もありました。ペルーはどういう流れだったのでしょうか。
関 ペルーはフジモリ政権下で新自由主義が入り込んできた。政府を小さくして、市場経済にゆだねて新しい事業や観光業などがどんどん進んだ。その一方で、規則や法律がまだ整ってない。それで文化財に関する対立も起こった。例えばマチュ・ピチュのロープウェイ建設問題。
榎永 以前『月刊みんぱく』(二〇〇三年八月号)にも書かれていますね。

五年にアメリカの考古学者と山岳ガイドが発見した。そのミイラを日本にもって来た。これはまずいと思っただけで、すでに大統領と大使レベルのトップダウンで日本での展覧会の開催が決まっちゃってましたから、どうしようもなかった。
これはペルーで大々的に反対キャンペーンが繰り広げられました。「なぜわたしたちの文化の遺物だけが晒(さら)しものになるのか」「なぜ先進国の人の身体は晒(さら)しものにならないのか」「日本はペルーに国宝をもってきたりしないだろう」と。我々の友人たちから直接的に攻撃されて、とてもいたたまれなかった。それが九〇年代後半のこと。対立が南北問題の様相で一気に表面化した。

(注1)磐座(いわくら)……日本に古くからある自然崇拜の一種で、信仰対象となっている岩石

政府・識者・地元其三すくみ

樫永 自分たちの文化財を自分たちの文化として考える意識が覚醒した一方で、「それでお金儲かるんやっただらええやん」という意識との相克があったということですか？

関 そうですね。新自由主義的な風潮のなかで大統領は「文化を産業化しよう」と。次々に法令や大統領令を出して、ミイラも含めて、文化を政治的なイベントに利用していく。一方で、研究者や学者あるいはその文化を愛する人たちは「文化財は国がきちんと守るものだろう」と主張した。

この対立だけだったらどこでも見られる話だと思う。けれど、実際にそのミイラが出土した地方のコミュニティの声が聞こえないのはおかしいと思つた。そのうち地元の人たちがインターネットニュースを使つて「わたしたちには情報がシャットアウトされている」と訴えた。「わたしたちの意見がまったく通らない」「ミイラはわたしたちのものだから、村に戻せ」とも。ミイラでもって村おこししたいってわけだ。

それに対して識者たちが「何を言つてる。お前たちがミイラを守れるわけがないだろう」とコミュニティ一方、音楽や芸能、祭りといった無形遺産であれば立場が逆転する。知識は圧倒的にコミュニティがつている。研究者は教えてもらおう立場なんです。

樫永 文化遺産の質の違いですね。関 パコパンパではこれを混ぜちゃえと。無形遺産を混ぜれば、村の人たちが自らの知識を利用しながら、有形遺産を活用することができる！

樫永 おもしろい。そこはすごく人類学的ですね。関 うちの調査団は東京大学の文化人類学教室をベースにしてきたから、考古遺物そのものに興味があると同時に、人に対する興味が非常に強い。文化財にまつわる社会的な意味にとっても関心が強いわけです。

樫永 それはいつ建設されますか？関 二〇二六年、二七年に建設予定。計画してから、もう七年ぐらい戦つてるんだけどさ（笑）。というのは、借金を抱える途上国や新興国の場合、公共事業は国が掲げる経済の投資計画の枠組みの縛りが強い。でも日本もそうだけど、儲かる遺跡なんてほ



クントゥル・ワシ博物館で受付作業をおこなう文化協会スタッフと館内を清掃する文化協会員(ペルー クントゥル・ワシ、2004年)

の発言を封じてしまった。

樫永 政府・識者・現地コミュニティの三すくみになるわけですね。

関 じつは新自由主義とかグローバル化のなかでいちばん疲弊してるのはコミュニティなわけです。経済的にも社会的にも疎外されている。コミュニティにまったく味方しない識者にも僕は絶望してしまつた。

でもこのままではいけない。僕たち研究者は、国がやるうとしてる施策を十分理解し、一方でコミュニティの文化遺産に対する思いをきちんと汲み上げなきゃいけない。それをできるのは研究者なり、中間に立つ人

とんどないんだよ。ペルーだつてマチュ・ピチュぐらい。でも、その枠に入れないと国は動いてくれないのがすごく大変なところ。

樫永 第二、第三のマチュ・ピチュになると説明が必要なんです。関 わたしは反対だね。ここをマチュ・ピチュにする必要はないし、アンデス文明のことを語るなら、パコパン

パの方がわかることがたくさんある。村の人たちが自分の生業や生活を営みながら、一方でこの遺跡公園やインタープリテーションセンターを運営することで、その村人たちの生活水準を上げることができたらいいんじゃないかと思つています。

樫永 だとすると、村から人が出稼ぎなどで都市に流出していくと問題ですね。

関 今、ペルーは都市が急激に膨張している。経済的なマーケットは都市に集中してるし、教育の機会も大都市の方が多様だし、水準も高い。うちの村だけじゃなく、アンデスの村はどこも人口流出の問題がある。ペルーの人口は増えているにもかかわらず、パコパンパの村の小学校の校長先生から、今年の新入生はゼロだつたと聞いてショックを受けた。将来、多様な文化とか無形遺産の担い手がいなくなる。高齢化が進み、

間だろうと。

樫永 発掘調査だけすればよいというわけではないんですね。

関 クントゥル・ワシではまさに国とのあいだを取り持ち、許可書を取つて地元で博物館を建てた。日本で開催した展覧会の協賛金と寄付金を使いました。村の人たちにはNGO組織を作ってもらつて、彼ら自身が博物館を運営しています。

パコパンパ遺跡二〇周年

関 二〇〇五年からパコパンパ遺跡の発掘調査に入つて、すでに二〇周年。この間、村人たちと話し合いを

遺跡を管理してくれる人たちもいなくなる。

現在取り組んでいるのが、有形や無形の文化遺産のプログラムを学校教育のなかに組み入れること。村のなかで文化遺産を利用した土産物や観光産業や地場産業などいろんなことができるような知恵を学校教育のなかに取り入れようとしています。

考古学者は盗掘者？

樫永 そんななか、遺跡を掘る考古学者の活動について、あるいは盗掘について、現地の人たちはどんな見方をしていますか？

関 盗掘者ってほとんどの場合が地元の人たちなので、「目の前の自分

重ねてきた。

文化財は誰のものか？って言われたいら、別に特定の誰のものでもないんです。一応、文化財は国が管理してるけど、その意味は多義的だし、研究者にとつても文化財は大切なものです。一方、村の人たちにとつては、その村の財産、宝でもあるかもしれないし、自分たちの誇りの源かもしれない。その思いを、遺跡の運用や管理という面にどのように活用できるかをずっと考えてきました。

だからパコパンパでは調査と並行して村の人たちと遺跡を保存する公園化を進めた。今、ペルー北高地でいちばんきれいな遺跡公園になっています。これから、村に来る人と地域を結び付けるインタープリテーションセンター(注2)を建てる計画を進めています。

樫永 今の時代の可視化装置を村に建てるんですね。

関 冷静に分析するとクントゥル・ワシの場合は考古学博物館なんだよね。有形遺産である考古遺物については知識の差が存在して、地元の人たちより研究者の立場が強い。村の人たちは研究者のシナリオに沿って活動するという上下関係が崩せない。クントゥル・ワシは素晴らしい例だけど、そこに限界があると感じました。

の土地にあるものを利用して何が悪い」という論理がいちばん強い。

盗掘者と考古学者の違いは、ひとつは文化財保護法という規則にのっとりやつてるかどうか。もうひとつは、学術的な意味をもって掘つていてるかどうか。つまり、発掘の仕事、出土した遺物の扱い方が大きな違いでしょう。でも、学術に一般人はさほど関心をもっていない。

一方クントゥル・ワシやパコパンパの村人は、自分たちの歴史が明らかになって喜びを感じている。じつは、これはその前に考古学者とのあいだに長い対話があったからです。

樫永 宗教もかかわっていますか？関 アンデスの農民たちの多くはカ



「パコパンパの貴婦人の墓」の発掘(ペルー パコパンパ、2009年)

(注2)インタープリテーションセンター……旅行者などに村の歴史と文化や遺跡を案内・解説する拠点となる施設



ソリック教徒です。カソリックは植民地時代以降、四五〇年以上の歴史がある。徹底的に異教徒を弾圧して、異教の根柢となる遺跡を破壊してきました。アンデスは山の頂や湖やいりんなものに霊的なものを認めていた。廃墟となった遺跡にもです。そのような霊の見方、精神性はカソリックと相容れない。遺跡は悪霊が住む場所として否定的に認識されていたりする。

二〇年前、はじめてパコパンバに

行ったときは、住民たちは「赤ちゃんが病気になるから遺跡には連れていかない」と言っていた。けれど今ではみんな遺跡に赤ちゃんを連れてくる。世界観は変化するんですよ。植民地時代に世界観が変化して、自分の愛すべき先祖の事蹟がキリスト教徒によって否定され、暗黒の世界に追いやられ、悪霊が住むような場所に変換された。しかし現在、調査団がその遺跡の文化的な意味を示していくと、彼らの世界観も柔軟に変化する。

遺跡で発見があると、まず最初に住民説明会を開きます。役人より先に村の人たちに見せることを常に心がけています。ともにワークシヨップなどを開催するうちに住民たちの意識もどんどん変わっていった。文化遺産を自分たちのものとして捉えるようになってくる。時間はかかるけれどこれを繰り返していかないと、誰も盗掘などしないような場所にも変わる。いつてみれば、盗掘よりもっとおもしろいものがあるということに気がつく！

関雄二少年、明日香村へ一人旅

関 関さんは考古学への人類学的应用を実践されていますね。アンデス考古学は伝統的に東京大学の文化

権力が生まれてくる。ここをDNA分析しても、血縁関係がでなかったりする(笑)。そういうように過去の人と自分との関係性をイメージするわけだよ。

樫永 極端なのが万世一系ですね。でもその前に、どのようにして権力者が登場するのでしょうか？

関 今、実践論とか偶然性みたいなことにすごく興味をもっている。人間は同じことをやっているという意識をもつてやっているにもかかわらず、やってくるあいだに違うものがある。きあがるといふこと。神殿こそがそれなんです。神殿を作り始めて、村人たちはみな同じ儀礼をやっているつもりなんだけど、神殿がだんだん高くなると、その神殿の上でやっていることが見えな人が下に生まれる。そうすると、社会のなかで分化が起る。

樫永 そういう意味ですか！なるほど。いや、僕はちよつと違う意味で捉えてました。モノを作るのって、最初にプランがあるんですけど、作り始めると実際にはそのとおりにいかなくて、プランを修正しながら作って、「まあこれでええやん」ってところでよしとすることに……。人間とモノとの関係性のなかで文化

人類学教室が中心ですよ。その流れというのは大きいですか？

関 当初はアンデス考古学ができると思っただけだった。

樫永 むしろ文化人類学を研究するつもりだったんですか？

関 古代や神話というものが好きだった。古代史とか。折口信夫とか柳田國男ですよ。特に僕は折口が好きだった。古代が好きだった。

樫永 関さんは学生時代に奈良県の飛鳥坐神社で聞き取り調査をされてましたよね。

関 折口の祖父がその神主だったよね。宮司さんに親切にしてもらって。中学二年のときから一人旅で明日香村の民宿に泊まって。思えば古代に対する郷愁を感じてたんだね。

樫永 あそこは磐座がたくさんあって大好きな神社です(笑)。

関 それから大林太良先生の比較神話学。日本の古代史を研究するのに外からの視点で比較しつつ、日本を分析できるんだと。神話の構造を抽出して、その構造がインド、ヨーロッパからユーラシアを経て、韓国そして日本列島まで流れ込んできた。普遍的な人間の構造みたいなものが時代とともに伝播していくプロセスを追ったというのは、時間性には疑問があるとしても古代へのアプローチ

チとして論理的で説得力があった。

権力のはじまり

樫永 関さんの学問は考古学というより先史人類学といった方がいいのでしょうか？

関 僕はあんまりプレヒストリー(先史)ってことばを使わないかな。常に歴史はあったと思うから。

例えば秋祭りのような毎年繰り返される循環的な時間観と、歴代の王というような過去から現在へとつながる直線的な時間観がある。直線的な時間観を物質化したり利用しようとしたときに、文明ができると僕は思っている。

樫永 直線的な時間観によってこそ発展が明確に定義されるという意味でしょうか？

関 発展というか、過去の人と自分とのつながりを意識して、それを生きている側の人間がうまく利用しようとするときに歴史性が生まれる。

歴史性という考え方は、文明とか権力者の権力維持にとって大事な装置なんです。血縁関係を使って権力をもつ人が出てくる。これは直線的な時間観。「あの王様の血筋を引いているのがわたしなんです」なんてのが偽りであろうが何であろうが、それをうまく利用することによって



1979年ワカロマ遺跡発掘調査(左)と2022年パコパンバ・プロジェクト(右)のフィールドノート。祖先崇拜の象徴である埋葬墓について、発掘現場で得られる情報を日々書き留める

きあがった装置をうまく利用している人が出てくるだろうと。それがおそらく最初のリーダーで、そのリーダーは権力を維持するためにいろいろなことをしていかなくちゃいけない。

樫永 例えは？

関 祖先崇拜みたいなことをしだす。

神殿の中央に、祖先を埋葬して、儀礼をする。神官たちは農業生産や生業の方に携わらなくても生きていける社会ができるかもしれない。こうなると今度はその差を生み出すための実践を意図的に作り出していくの

樫永 カリスマなき後は、制度化して、官僚化していくんですね。

パコ パンバの少年が考古学者に！

関 現代に話を戻すと、学術とコミュニティの相互乗り入れができるような仕組みができないかなと考えています。僕は論文を書くけど、村人は論文に参加できない。その解決方法として、村人のなかで専門家を作っちゃおう！ じつはそれがパコパンバで実現した。幼いころからつきあいのある村人が考古学者になって、プロジェクトに参加しています。僕が村にいないあいだに問題が起これば中心となって動いてくれる。

樫永 カリスマなき後は、制度化して、官僚化していくんですね。失われる文化の身体性

樫永 みんなが所蔵する三四万六〇〇〇点の標準資料。それを梅棹さんがガラクタってよんだ時代は、現地に行けば当たり前にあるモノばかりで、それに触ることができた。みんなはそういうモノの身体性を重視していたわけですよ。

関 社会全体で情報化が進んでフォォラム型としてモノの情報発信していくことは可能だけど、今後ますます身体性は隔離される可能性がある。ありすよ。祭りも人との距離感や接触はどこまでいいのかを各地域の文化のなかで学ぶわけだよ。でも祭りが廃れたら祭りのモノにも触れられない。身体性がどんどん失われて、モノだけ残って、さらに情報だけになるのは悲しいこと。

関 フォォラムのひとつだね。みんなのフォォラム型情報ミュージアムプロジェクトはまさに知識の相互乗り入れだよ。みんなが収蔵しているモノのほとんどは、梅棹忠夫初代館長がガラクタって言った日用品のようなモノだけど、その使い方は研究者以上にコミュニティが知っている。そしてもうひとつのフォォラムが大切。みんなを訪れる来館者です。この来館者の人たちがフォォラムにどう巻き込むか。予算や負担がかからない方法とかバランスを考えながら

樫永 一般的なイメージとして、文化は視覚的なものという捉え方が強くなってきているかな。モノとの接触とか、モノに対する身体性が欠如すると、三四万六〇〇〇点は全部捨てて、情報だけ残したらええやんっていう考え方が強くなっていくかもしれない。ヤバイ……。

関 特に触ること。本館の広瀬浩二郎さんが研究している触文化だね。

人類史において視覚領域の進化がすごく大きかったわけだけど、現在の文化はあまりに視覚に頼りすぎていて。触れることを含めた五感がとても大事ですね。それを博物館のなかでどう示していくか。

樫永 それこそ関さんは現地で闘牛もしてましたけど、『月刊みんな』二〇二二年一月号、実際は文化のなかで身体性はとても大きな部分を占めています。

関 闘牛をしたときの緊張感！ 小さなアドレナリンが出っぱなしになったのは人生で初めて（笑）。

樫永 その興奮は展示でなかなか伝えられない。ボクシングでも試合前は「グローブを自分で外せるんやったらトイレに行くフリして逃げ出したろかな」と思うけど、試合終わった瞬間「次いつやるかな」って（笑）。

関 僕はフュンシングをやったからその気持ちわかる（笑）。フュンシングは読みだよ。コンピュータのように相手のパターンを読んで、次の攻撃をどうするかコンマ数秒で決めたりする。しかも、自分のやりたことができない状況に陥ったときにまたどうするか。突拍子もない動作が生まれたりするわけだよ。

樫永 そういう身体性は情報には変えにくいです。



パコパンバのクイは脂っこくなくて美味しい(ペルー パコパンバ、2007年)

クイ って美味しいの？

樫永 身体性の話で最後に聞きたいことが。クイって美味しいですか？（笑）

関 クイ！ モルモットね。僕あんまり好きじゃなかったんだけど、パコパンバのクイは美味しいんですよ。

樫永 丸焼きですか？

関 丸ごとフライだね。お皿の上に姿揚げそのまま載ってくる（笑）。牛肉とか豚肉より高い高級料理。だから僕の誕生日や家に招待されたときくらいしか食べられない。台所の囲炉裏の辺りの温かいところに集まって、クイッククイックって大合唱！

樫永 子年にクイを丸かじりにしてる写真の年賀状を出したらすごく評判悪くて（笑）。干支を食べるとは何ごとだってみんなに言われたけど（笑）。特に頬の肉が美味しいね。クイの顔を見つめながら食べる（笑）。一度ペルーに行ったら食べてみて。

関雄二新館長への55の質問

もっと知りたい！

- 出身地は？
東京都
- 研究のご専門は？
南米アンデス地域の古代文明研究と文化遺産の保存と活用に関する研究
- みんなの推しの展示は？
アメリカ展示のチュルカナスの焼き物
音楽展示の田端義夫のギター
ヨーロッパ展示の墓碑
- 子どものころにハマった漫画やアニメは？
「伊賀の影丸」。忍者になりたかった
- 10歳のころの夢は？
天文学者かな
- 学生時代のニックネームは？
ゆうちゃん
- 初恋は何歳？
14歳かな
- 得意なスポーツは？
フェンシング。部活でした
- 好きな季節は？
春
- 好きな色は？
緑
- 好きな花は？
ユリが好きですが、最近は山野草がいいですね
- 好きなのは計画的な旅？ ふらり旅？
ふらり旅
- 今まで落としたり盗られたりした金品の最高額は？
1万円くらい
- 晴れ男？ 雨男？
晴れ男
- 暑がり？ 寒がり？
暑がり
- 会ってみたい歴史上の人物は？
今、発掘している遺跡を築いた人たち
- 自分を動物にたとえると？
タヌキ。生まれつき肋骨が張り出し、腹が出て見えたから
- 「人生で最大のピンチ！」は？
中学でけがをして入院し、成績が下がって転校を勧められたとき

- 好きな食べ物？
日本そば
- 苦手な食べ物？
昆虫食くらいかな
- 苦にならない家事は？
掃除、料理
- 得意な料理は？
家庭料理ならなんでも作ります
- 朝食はパン派？ ごはん派？
パン派
- コーヒー派？ 紅茶派？
コーヒー
- 好きなお酒は？
赤ワイン
- ラーメンはとんこつ派？ 醤油派？
醤油派 細麺派です
- 人生最後の食事に食べたいものは？
白飯と納豆、海苔
- 人生のモテ期はいつ？
20代後半かな
- 愛したい派？ 愛されたい派？
愛したい派かな
- 話上手？ 聞き上手？
話し上手かな
- 芸術家肌？ 科学者肌？
芸術家肌
- 会議は対面派？ オンライン派？
対面派です
- 大勢の人前に出るのは緊張する？
緊張しません
- イヌ派？ ネコ派？
ネコ派
- 電子マネー派？ 現金派？
電子マネー派になりつつあります
- 観るのが好きなスポーツは？
サッカーとラグビー
- 有名人とのめずらしい出会いは？
大指揮者レナード・バーンスタインと
草野球をしたことがあります
- カラオケの十八番は？
アリスの「遠くで汽笛を聞きながら」
- 今まで釣ったいちばん大きな魚は？
多摩川で釣った鯉。50センチあった

- みんなが知らない驚きの特技は？
手を使わず、頭の毛を動かすことができる
- 占いは信じる？ 信じない？
信じません
- UFOをみたことはある？
残念ながらありません
- 一日のなかでリラックスしているのは何をしているとき？
庭の花を手入れするとき
- 腹が立ってしかたがないとき、何をして解消する？
身体を動かす。歳のせい、腹が立ってもすぐに忘れます
- 健康のためにおこなっていることは？
ときどき体操とウォーキング。
先日、やり過ぎて腰を痛めました
- 集めている物は？
世界各地を訪れたときに絵や版画を購入します
- 受賞していちばんうれしかった賞は？
調査地のペルーの村での功労者表彰
- 最近買ってよかったモノは？
マットレス。安眠第一！
- 今、おすすめの本は？
ケン・フォレット『大聖堂——夜と朝と』
- 今、おすすめの映画は？
「コンクラーベ(教皇選挙)」かな。でも米国外のサスペンスドラマが一番好きです。たとえば「シエランド」など
- 今、一番行きたい場所はどこ？
北欧
- これからチャレンジしたいことは？
淡彩ですが、もっと絵を描きたい
- 研究者になって、よかったと思うのはどんなとき？
自分の考えが論文や本になり、他の研究者がよい評価してくれたとき
- 研究者になって、失敗だったと思うのはどんなとき？
先行きが心配だと、彼女の親から思われたとき
- 研究者にならなかったら今、どんなことをしていた？
インテリアデザイナーか、広告関係かな

パコパンパ遺跡の20年とこれから

パコパンパ遺跡 第3基壇

円形構造物

直径28メートル
夏至の日に入り口のベンチ状構造物からラ・カビーヤ山を観測すると、ちょうど山の頂上から昴(プレアデス星団)があらわれる

もうひとつの建築の軸

パコパンパの貴婦人の墓

2009年発見

方形半地下式広場

一辺30メートル

ヘビ・ジャガー神官の墓

2015年発見

パコパンパ複合遺跡群発掘調査

ペルー国立サン・マルコス大学と国立民族学博物館の発掘調査

2005年 パコパンパ考古学プロジェクト開始

2009年 「パコパンパの貴婦人の墓」の発見(Ⅱ期)

2015年 「ヘビ・ジャガー神官の墓」の発見(Ⅱ期)

2020年 パコパンパ遺跡から東に600メートル離れたラ・カビーヤ遺跡の調査開始

2022年 ラ・カビーヤ遺跡における「フトウトゥス(巻き貝)神官の墓」の発見(Ⅰ期前半)

2023年 ラ・カビーヤ遺跡における「印章神官の墓」の発見(Ⅰ期後半)

2027年 パコパンパ村にインタープリテーションセンターを建設予定

ラ・カビーヤ山方向
昴の出現方向

第3基壇

第2基壇

第1基壇

パコパンパ複合遺跡群

ペルー北高地カハマルカ州チョタ群に位置
海拔2500メートル 16ヘクタール
アンデス文明初期、形成期の大神殿遺跡
パコパンパⅠ期(形成期前期、紀元前1200年～紀元前700年)
パコパンパⅡ期(形成期後期、紀元前700年～紀元前400年)



パコパンパ遺跡と周辺の地形



パコパンパの貴婦人の墓 パコパンパⅡ期

2009年、神殿の中央部から、紀元前700年ごろの女性権力者の墓が出土した。頭部に朱(硫化水銀)と青色顔料(藍銅鉱)がかけられ、金製耳輪や板状金製耳飾りなど、金の装身具を身につけていた。パコパンパの貴婦人の墓と名づけた



ヘビ・ジャガー神官の墓 パコパンパⅡ期

2015年、一部重なるようにして安置された2体の被葬者の墓が出土した。副葬品としてヘビの胴体とジャガーの顔をもつ壺が出土したことから、ヘビ・ジャガー神官の墓と名づけた。南北アメリカ大陸で最古級の金の首飾りも出土した



フトウトゥス(巻き貝)神官の墓 パコパンパⅠ期前半

2022年、パコパンパ遺跡から600メートル東にあるラ・カビーヤ遺跡にて、1トンはあろう蓋石の下から出土した。被葬者はパコパンパ遺跡方向に顔を向けるように安置されたと考えられる。身体の下に大型ストロンプス貝(カプトソデガイ)が数万点のビーズ玉とともに置かれていたことから、フトウトゥス(巻き貝)神官の墓と名づけた。貝には赤色顔料(分析中)が撒かれていた



印章神官の墓 パコパンパⅠ期後半

2023年、ラ・カビーヤ遺跡にて、神官の墓が出土した。副葬品としてジャガーの横顔や手形をモチーフにした印章(スタンプ)が3つ出土したことから、印章神官の墓と名づけた



出土した印章(スタンプ)

みんなく 回覧板

観覧料改定のお知らせ

2025年6月19日(木)から、本館展示観覧料を左記のとおり改訂いたします。なお、特別展示観覧料はその都度、別に定めます。ご来館者のみなさまにはご負担をおかけしますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

◆2025年6月17日(火)まで

一般	大学生	高校生以下
580円	250円	無料

◆2025年6月19日(木)から

一般	大学生	高校生以下
780円	340円	無料

各種割引等につきましては、みんなくホームページをご覧ください。

◆みんなく創設50周年記念特別展

民具のミカタ博覧会

— 見つけて、みつめて、知恵の素 —
本特別展では、日常の生活に必要な

イベントの詳細・予約はこちら

みんなくホームページ
催し物のご案内
<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



各イベントについて、詳しくはホームページをご覧ください。

ものとしてつくられ、使用されてきた民具について、くらしのなかの美の造形として紹介します。



壺 ババアニューギニア

◆関連イベント
公開シンポジウム
Doing TSUNECHI『忘れられた日本人』を読み直す

日時 4月13日(日)13時20分～16時
会場 本館2階第5セミナー室(定員50名)
参加費 無料(展示をご覧になる場合は展示観覧券が必要)
※詳細はみんなくホームページからご確認ください。

※オンラインライブ配信でもご追加いただけます。(定員450名)
※詳細は二次元コード(QR)からご確認ください。

ワークショップ
じゅくじゅく観察！
民具に探る『デザイン』の素』
展示している民具をじっくり観察することで見えてくる『デザインの素』。スケッチブックを持って民具を観察し、ヴァナキュラーなデザインの魅力を見つけ、共有する演習授業を体験いただきます。



日時 5月4日(日)祝
会場 特別展示館
講師 加藤幸治(武蔵野美術大学教授)、亀山裕市(武蔵野美術大学非常勤講師)、神垣成美、中川百合、徳永彩乃(ミシグリーナ)
参加費 要特別展示観覧券(一般880円)
※イベント参加費は不要
※詳細はみんなくホームページからご確認ください。

ワークショップ
民具の4コママンガを作ろう
展示の各トピックのデザインのアイデアをもとに、民具や仮面等を擬人化して4コママンガを作るワークショップです。みんなで、4コママンガを制作し展示します。

日時 5月5日(月)祝
会場 特別展示館
講師 加藤幸治(武蔵野美術大学教授)、ツルタシュリ(デザイナー)、天夏夏矩(マンガ家)
参加費 要特別展示観覧券(一般880円)
※イベント参加費は不要
※詳細はみんなくホームページからご確認ください。

みんなく創設50周年記念企画展
点と線の美学
— アラビア書道の軌跡 —
コミュニケーションのデジタル化が進む今日、20世紀以降のアラビア書道の変容と再生の軌跡から、手で文字を書くことの社会的役割について探求します。



本田孝一が2000年にイスタンブールで授与されたアラビア書道の免許状(イジャザ)

日時 6月17日(火)まで
会場 本館企画展示場

◆関連イベント
アラビア書道とはじめ
書いてみよう点と線
5月18日(日)
【午前の部】10時30分～12時45分(受付開始10時)
【午後の部】14時15分～16時30分(受付開始13時45分)
会場 本館2階第3セミナー室、企画展示場(定員各回20名)
講師 山岡幸一(日本アラビア書道協会事務局長)
重信紀子(日本アラビア書道協会講師)
相島葉月(本館准教授)

対象 小学5年生以上を推奨
参加費 500円(大学生、一般の参加者は要本館展示観覧券)
【申込期間】
4月10日(木)10時～24日(木)16時
※事前申込制(抽選のうち、5月2日(金)までに抽選結果を通知)。1回につき1名の応募が可能。

みんなく映画会
人もモノもつるいゆく時代に、点と線は変わるが価値を描く
— エジプト映画「フォトコピ」 —
大都市カイロで静かにコピー屋を営む元植字工のマフムード。恐竜が絶滅した理由を知った彼は、長年恋心を抱いていた隣人へのプロポーズを決意します。



© Red Star Films

日時 6月8日(日)13時30分～16時
(受付・開場12時30分)
会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)
上映作品 「フォトコピ」(エジプト、2017年)
解説 相島葉月(本館准教授)
参加費 要展示観覧券(一般580円)
※イベント参加費は不要
※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順
※事前申込の方へ、当日12時30分から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場していただきます。
※受付期間中に定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。

【申込期間】
友の会先行受付
4月28日(月)～5月2日(金) 定員70名
【お申し込み先】
国立民族学博物館友の会(千里文化財団)
一般受付
5月7日(水)～6月4日(水)

番組番号	タイトル	時間	地域
7254	つながりを生きる 東京のエチオピア移民	50分	アフリカ 日本/関東
7255	Living in Connection -Ethiopians in Tokyo-	50分	アフリカ 日本/関東

監修 川瀬慈(本館 教授)

ビデオテーク新番組
本館2階インフォメーション・ゾーン無料のビデオテークブースとみんなくシアターにて公開中。



みんなくゼミナール

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)
参加無料、申込不要(定員400名)

第556回
4月19日(土)13時30分～15時(13時開場)
本田孝一の書と宇宙
講師 本田孝一(アラビア書道家)
相島葉月(本館 准教授)

日本におけるアラビア書道の第一人者である本田孝一先生をお迎えして、このアートの魅力について語り合います。本企画展のために制作した作品や道具の解説とともに、筆遣いも披露していただきます。

第557回
5月17日(土)13時30分～15時(13時開場)
民具のミカタ博覧会ができるまで
— EEMコレクション×ムサビ・コレクション —
講師 加藤幸治(武蔵野美術大学 教授)
日高真吾(本館 教授)
野林厚志(本館 教授)

特別展で紹介しているEEMコレクションとムサビ・コレクションの概要を示しながら、民具の魅力について紹介します。



ソマリアで収集された木の枕

みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう

※定員なし(ご自由に参加いただけます)
※申込不要、要展示観覧券(一般580円、会場が特別展示館の場合は一般880円)
※イベント参加費は不要

4月6日(日)14時30分～15時15分
太陽の塔の「地底の太陽」大考察
話者 末森薫(本館 准教授)
春原史寛(武蔵野美術大学 教授)
会場 特別展示館

4月13日(日)14時30分～15時15分
『点と線』か『線と点』か?
— アラビア文字の変遷と書道芸術への展開 —
話者 中道静香(本館 外来研究員)
山中由里子(本館 教授)
会場 本館展示場(ナビひろば)

4月27日(日)14時30分～15時15分
数学者の民具論
話者 日高真吾(本館 教授)
正井秀俊(武蔵野美術大学 准教授)
会場 特別展示館

5月4日(日祝)14時30分～15時
アラビア書道を刻む
— 装飾タイルとモザイクタイル —
話者 黒田賢治(本館 助教)
会場 本館展示場(ナビひろば)

友の会 講演会・セミナーへのお申し込みは友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

お問い合わせ先 国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団)

電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716
E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会講演会

参加形式: 会場もしくはオンライン配信
友の会会員: 無料
一般(会場参加のみ): 500円
※事前申込制、先着順
※会員は会場参加の場合、事前申込不要

第559回 4月5日(土)13時30分～15時
「民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素」の展示を概観する
講師 日高真吾(本館 教授)
会場 本館2階第5セミナー室(定員70名)

第560回 5月3日(土祝)13時30分～15時
イザベラ・ウフマンと
レターリアリティの世界

講師 永井正勝(筑波大学 教授)
相島葉月(本館 准教授)
会場 本館2階第5セミナー室(定員70名)
イザベラ・ウフマンは、絵もテキストとしてとらえた古代エジプトの人々の思想を継承する現代アートの作家です。本講演会では、絵画でもありテキストとしても読めるウフマン作品の世界観を解き明かします。

東京講演会

友の会会員: 無料
武蔵野美術大学在学学生・教職員: 無料
一般: 500円
※事前申込制、先着順(定員50名)
※オンライン配信はありません。

第139回 5月24日(土)13時30分～15時
みんなく×ムサビ
「民具で継がれるコレクション」
講師 加藤幸治(武蔵野美術大学 教授)
会場 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス7階
コワーキングスペース「Ma」
(東京都新宿区)

共催 武蔵野美術大学 美術館・図書館
国立民族学博物館が所蔵する、民具研究黎明期のアチックミュージアム・コレクション。渋沢敬三に学んだ宮本常一が、戦後に若者たちと収集したムサビ・コレクション。それと同時に大阪万博のために世界中から収集されたEEMコレクション。三つの民具コレクションから、アチックミュージアムが現代に残したレガシーを探ります。

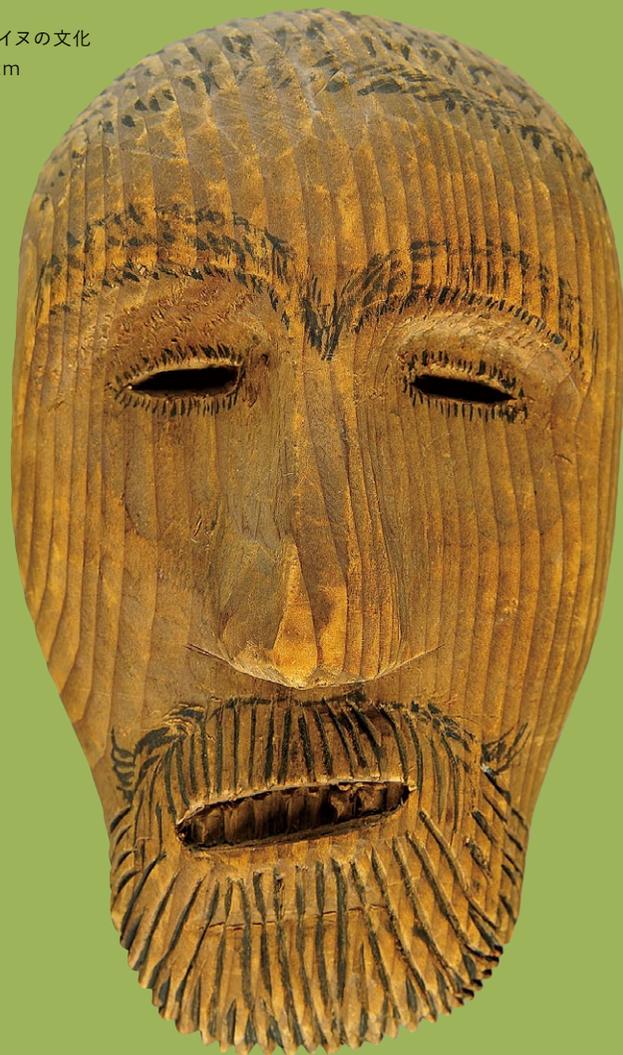
仮面

標本番号 | K0002378

地域 | 色丹島

展示場 | 東アジア アイヌの文化

サイズ | 15cm×8.9cm



◆ 推しコレポイント ◆

耳部に紐（ひも）をかけるために空いた穴が推しポイント。人がつける物なのだろうか？ いや、装着するには小さい気がする。仮面をひっくり返してみると、背面には装着時、鼻が納まる溝が彫られている。一体この仮面は何のために作られたのだろうか？



推しコレ図鑑

「幽霊」仮面！

いのうえ しんし
井上 真史

怪談文化研究家
まち歩き案内人

フジルの仮面

みんなくには仮面が無数にあるけれど、東アジア展示〈アイヌの文化〉に展示されている木製の仮面をごぞんじだろうか。装飾がなく髭が描かれた面は虚ろな表情がチャームポイント。じつはこれ、千島アイヌの「幽霊」フジルの仮面。幽霊と聞くと俄然興味を惹かれる。極東調査で知られる初期人類学者の鳥居龍藏が採集した資料。記録にはこのように書かれている。

この幽霊は、小屋をはじめ、あらゆる場所に不意にぼんやりと現れるという。それは必ず顔面に木製仮面をつけており、もし仮面がとれると、顔はのっぺらぼうであるという。きわめて邪悪で、人を怖れさせ、しかも憐れな人間を食べてしまうとさえいわれる。（「考古学民族学研究・千島アイヌ」『鳥居龍藏全集 第五巻』朝日新聞社、1976年）

仮面をつけた幽霊観とは生前のパーソナリティや人間性が欠落したかのように面白い。

多くの北海道アイヌは、人を具象化することを忌避したという。特に仮面は聞いたことがない。鳥居の報告によると、盗賊が幽霊のフリをするために使うこともあったという。フジル面から北海道アイヌと千島アイヌの「見えないモノ」に対する感覚の違いが見てとれる。



石川鴻斎(いしかわこうさい)『夜窓鬼談』1889
(明治22)年刊より、「牡丹燈」挿絵(著者蔵)

「見える化」される幽霊たち

物として表現しないだけで、アイヌの語りでは死者や怪物を詳細に描写する。目に見えない恐ろしいモノや光景は、その方が、よりこわく、より「効く」。受け手の想像力へ如何に働きかけるかが重要である。

死者の表現といえば、本州では江戸時代、怪談文化の隆盛するなかで幽霊画も無数に描かれた。当時の本州人は幽霊を描くことを楽しんでた節がある。死者の表現は鎮魂だけでなく、人を驚かす、教えを説く媒介、そして娯楽として深化していく。これらを丁寧に比較して見ていけば、文化圏の死生観や、何を恐れて来たかわかる……といいなあ、と思いつつながら怪談を読んでいる。怪談もフジル面と同じく死者表現の一形態である。

生者にとって死は、実体験として知る機会生涯に約一度しかなく、不安と好奇心の対象である。フジル面や幽霊たちを考えるのは生者の心を考える営みに他ならない。

ミンパク オッタ カムイノミ

マーク・ウィンチェスター 民博 助教

人間とカムイの関係

一月が近づくと、館内は少し楽しみでそわそわし始めた。ミンパク オッタ カムイノミ（みんぱくでのカムイノミ）が開催されるからである。

アイヌの伝統的世界観では、特に強い霊力を持つもの、人間（「アイヌ」）にとって重要な働きをするもの、人間への影響力が大きいものをカムイとよぶ。カムイは、自分たちの世界では人間と同じ姿で生活し、人間の世界を訪れるときは動物や自然現象などに姿を変える。

カムイにも人間と同じく、喜怒哀楽の感情があり、人に対して親和的だったり、無関心だったり、または敵対的だったりする。だが、人間にとって善なるカムイでも、その怒りを買えば不幸に見舞われる。逆に、悪なるカムイが人間を救うこともある。人間とカムイの関係は、相対的なものであり、互恵的だともいわれる。

カムイノミは、カムイからの恩恵に対して祈りとイナウ（木の表面に削掛^{けずりかかけ}をつくりだした祭具）、神酒などを贈る儀礼である。カムイたちに特別な援助を求める手段でもある。儀礼を通じて人間とカムイの関係が確認される。

非公開から公開へ

ミンパク オッタ カムイノミは、本館が所蔵する民族資料の安全な保管と後世への確実な伝承を目的としている。一九七九年にみんぱくの「アイヌの文化」展示場が公開され

た。以来、カムイノミは萱野茂氏^{かやのしげる}（萱野茂二^{にぶた}風谷アイヌ資料館前館長、元参議院議員）が祭司となり、非公開でおこなわれてきた。萱野氏の没後、二〇〇七年からは社団法人北海道ウタリ協会（現公益社団法人北海道アイヌ協会）との協定に基づき、地域ごとの協会などが交替でカムイノミとあわせてアイヌ古式舞踊の演舞を実施し、公開することとなった。

二〇二四年は、前年に続き帯広カムイトウウポポ保存会が実施した。前日は、儀礼に使用する収蔵資料の器物と収蔵庫へのカムイノミがおこなわれた。一月二八日、公開日当日の天候は晴れて儀礼は前庭でおこなわれ、その後の古式舞踊では見学していた子どもたちも加わって賑やかなものとなった。

二〇二四年四月に国立アイヌ民族博物館から民博に移ってきたわたしにとっては、日本の博物館と先住民族とのもっとも長い歴史をもつ協同行事のひとつを内側から見る初めての機会となった。今後も、より多くの人が、この歴史ある儀礼にふれることを願っている。



上：カムイノミの最後にイナウを捧げる様子
下：古式舞踊の演舞
（大阪府吹田市、2024年、奥村泰之撮影）

ブータンで馬上の人となる

みやもと まり
宮本 万里
慶應義塾大学教授

山国のブータンにも馬はいる。しかし、彼らのおもな役割は、その背にたくさんの荷を積み、険しく細い山道を忍耐強く進んでいくことだ。例外的に「馬上の人」となれるのは、高位の仏教僧や王たち、そして高地に不慣れた旅人だけである。

それは、二〇年前の夏、政府の自然保護部門が組織した山岳調査に参加したときのこと、五〇〇メートルの峠越えを含む二週間の縦走調査のため、荷駄用に一〇頭あ



村の中を通過する馬列
(ブータン トンサ県、2006年)

まりの馬を雇用した我々は、その背に人数分のテントや食料、調理具、調査用の資材などをすべて積載した。あるとき、県境で馬の入れ替えをした際に二頭の余剰が出てしまった。せっかく雇ったのに馬の背を空にしておくのはもったいないという理由で(もっとも足弱とみなされた)わたしとブータン人の調査助手に「馬上の人」となる機会がめぐってきた。

馬の鞍は荷駄用に作られた木製であり、人間が乗る際はその上に厚手の絨毯や綿入りの座布団を乗せる。馬上から眺める谷の美しさに気をとられたのも束の間、崖が迫る細い山道を進む段になると馬の背は途端に不安定さを増し、わたしはすぐに鞍の前縁にしがみ付くことになった。乗馬から数時間が過ぎたころには内腿や脚の付け根に痛みを感じ始め、下馬する度に「アツツアツア」とブータン風の叫び声を上げつつ足



馬上の風景。目の前には撫でなくなるたてがみ
(ブータン タシガン県、2014年)

腰をさすることになる。「これは、歩いた方が楽なのは……？」という疑念が頭をよぎったそのとき、急に空が暗くなり、雨が降り出した。降り続く雨のなか、ぬかるんだ山道を歩き続けるのは、体力自慢の人たちにとっても厳しい行程だ。そこを傘を差しかざしつづつ谷を見下ろし、馬に揺られて行けるとは。有り難さに眼前のたてがみを撫でた。

近年、ようやくブータンでも遠隔の村々まで自動車道路が届くようになり、馬が運搬や交易の主役であった時代は終わりを迎えてつつある。しかし、馬でしか行けない場所はまだまだ見たことのない風景が残されていると想像すると、あの硬くて無骨な馬上に戻りたいと思うのだ。

祖霊によろしく

にしだ まさゆき
田 昌之 東北学院大学 講師



至るところに小さな神様

タイ国北部の町チェンマイから、バイクで一時間半ほど山に入ったところにある集落に滞在していたときの話でしょう。コムアンは平地に住むタイ系民族で仏教徒であるが、日本のように至るところにいる小さな神様もまた信仰している。いわゆる精霊信仰だ。

彼らの精霊信仰の視点で見ると、あれば、精霊は村人の生活をいつもじつと見つめており、時折、存在証明をするかのように生活に介入してくる。村のとある三叉路には怖い死霊ピー・ダーイホーンがおり、声をかけられないように気をつけなくてはいいけない（返事すると死ぬのだ）。森のなかの小川では、長い爪をもつ



稲魂(クワン・カーウ)への祭祀(タイ チェンマイ県、2007年)

た妖怪ピー・ポツカローンの悪戯を避けたいといけない(出会ったら水をかけて追い払わないとひっかかれる)。巨木には双子の美女の精霊が住んでいるので切ることとはできない(木こりは夜中に美女が訪ねて来たら

殺されるので要注意だ)。そんな話を僕は当初、遠い異世界の話かのように聞いていた。しかし、「物語の聞き手」がいつの間にか「物語のなかの人」になっていくことはよくあることだろう。

黒いものがどろり

ある蒸し暑い夜のことであった。寝苦しくて窓を開けて寝ていたのがよくなかった。ふと物音に目を覚ますと、開いた窓から黒いものがどろりと暗い室内へ入り込んで来るのを見た。そいつはベッドにウーウーと唸り声をあげながら近づいてくる。犬のようであった。僕は逃げようとするが、体がまったく動かない。かたや、そいつははずるずるとベッドまで上がった。

て覗き込んでくる。生温かい息づかいを感じる。最後に伸ばしたままの右腕の手の先にピタリと鼻先を押し当てた。僕は声にもならない声を上げて気を失った……と思う。気がついたときはすでに朝だった。開いたままの窓からはいつもどおりの穏やかな朝日が差し込んでいた。

「それはピー・プーニャー(祖霊)が見に来たんだな。お祈りしておこう」といい、お供え物をもつて、庭の裏にある精霊の祠まで行くと、「日本から勉強をしに来ている人がおりました……むにやむにや」とお祈りをしてくれたのであった。以降、黒いものは二度とあらわれることはなかった。もちろん、それ以降、僕は窓を開けて寝るのをやめた。

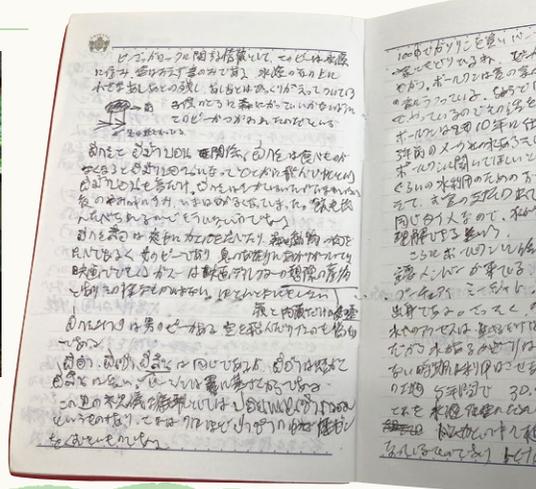
今晚見に行くからな!

後日わかったことであるが、この村でこのピー・プーニャーに遭遇したことのある人は多い。しかも厄介な祖霊で、結婚前の男女が一緒に部屋で寝た場合は殺すという極端な性格である。そのわりに結構忘れっぽい。都会にいる息子や娘がときどき戻ってくると、顔を忘れてしまうらしく、「知らない人がいるぞ。今晚見に行くからな!」と声をかけ、確認しに来るのだという。なんとハタ迷惑な祖霊だろう。ここから得られる教訓は、村ではあいさつは人間だけでなく、人間

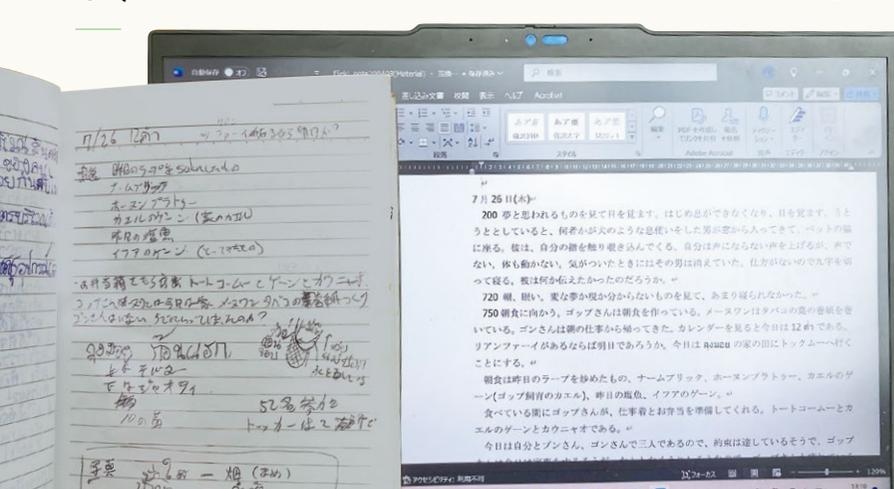
以外のものにもしっかりしておかないといけないということだろう。そうしないと、わざわざあちらからご足労いただくことになるのである。



村の精霊が宿る森(ドン・ガム)での憑依儀礼。守護精霊ジャオポー・インタノンが憑依している(タイ チェンマイ県、2007年)



森の精霊、悪霊たちについての聞き取り(2007年)



右上:2007~2008年調査で使用したフィールドノート。毎晩パソコンに清書をしていた

左:2007年7月26日ピー・プーニャーに出会った日の記事。フィールドノートには記載がなく、呑気に朝食のメニューのみ。電子データの清書版にその夜の話が書かれていた



ピー・プーニャーは母系で継承される祖霊。ヌワンおばあちゃんの寝室にあるピー・プーニャーの祭壇(上)に、年2回ほど豚の頭をお供えする(タイ チェンマイ県、2007年)



宿舎の裏の祠で祈るヌワンおばあちゃん。ピー・プーニャーに遭遇したあの日も、この祠に行ってお祈りしてくれた(タイ チェンマイ県、2008年)

対馬のアレンジまかない飯

たなか り
田中 瑠莉 京都大学大学院 博士後期課程

わたしは長崎県^{つしま}対馬で絶滅危惧種ツシマヤマネコの保全活動について調査しており、その合間に比田勝^{ひたかつ}という町にある食堂を手伝っている。この店は、釜山^{プサン}で22年間生活していた沖縄出身のオーナーと、釜山出身の料理長、数名のスタッフで運営されている。

対馬は日本よりも韓国の方が近く、北部に位置する比田勝は韓国との交流の窓口となってきた。そのため、比田勝を訪れる観光客の大半は韓国人で、この店の客も9割5分がそうだ。当初、この店では韓国料理を提供していたが、観光客のニーズに合わせて現在はうどんと沖縄料理がメインとなっている。

飲食店の少ない比田勝において、この食堂は観光客にとって欠かせないご飯インフラだ。港から近く、他店が閉まる時間帯や年末年始にも開いており、ほぼ10分以内には注文品がそろふ。「うちは対馬のファストフード店」とオーナーは冗談めかす。

わたしたちスタッフは、店の混雑が落ち着く頃合いを見計らってお昼を食べる。たいがい、うどんかご飯をベースに店の食材を自由に組み合わせた、まかない飯である。例えば、ご飯に肉うどん用の豚肉の甘辛煮と、タコライスのトッピングのチーズ、トマト、レタスをのせて、出汁をかける。この「なんちゃってチーズリゾット」は、美味しい、早い、温まる、の三拍子そろった一品で2024年冬の定番となった。

ときどき振舞われるオーナーや料理長の手料理は、スタッフの楽しみとなっている。特に、料理

長の家庭料理はテンジャンチゲ(韓国風味噌汁)やニンニクの効いたクリームシチュー、ワカメとキュウリの冷製スープなど、どれも絶品だ。

この店の営業時間は決まっていない。お昼を食べ損ねた人がいないか、オーナーが通りを歩く人に声をかけ確認してから店を閉める。訪れるみんなを笑顔にしたい。そんなオーナーの心意気あふれるこの食堂は、韓国と対馬島を繋ぐ窓として今日も元気に開いている。



スタッフ考案チーズリゾット。トッピングの分量はお好みで



料理長お手製のサンドップやチヂミなど、忘年会のごちそう(写真はどちらも長崎県 対馬 比田勝、2024年)

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6876-2151

発行人 山中由里子
編集委員 樫永真佐夫(編集長) 河西瑛里子
黒田賢治 中川理 奈良雅史 松本雄一
制作・協力 公益財団法人 千里文化財団
印刷 株式会社 研文社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係
にお願いします。

この雑誌は、環境に配慮した工場で、再生産可能な大豆由来のインク、FSC®認証材および管理原材料から作られています。また、読みやすくするために、色づかいやレイアウトなどに配慮しています。



『月刊みんぱく』は 国立民族学博物館の広報誌です。

世界の文化とみんぱくの展示、研究者の活動について紹介しています。本誌は定期購読のほか、友の会会員の方には毎月お届けします。

『月刊みんぱく』定期購読

本誌を1年間お届けいたします。年間とおして、いつからでも始められます。



お問い合わせ

国立民族学博物館友の会

みんぱくの活動を支援し、積極的に活用するためにつくられました。本誌送付のほかにも、各種催しなど、さまざまなサービスがあります。

定期購読、友の会については国立民族学博物館友の会(千里文化財団)までお問い合わせください。

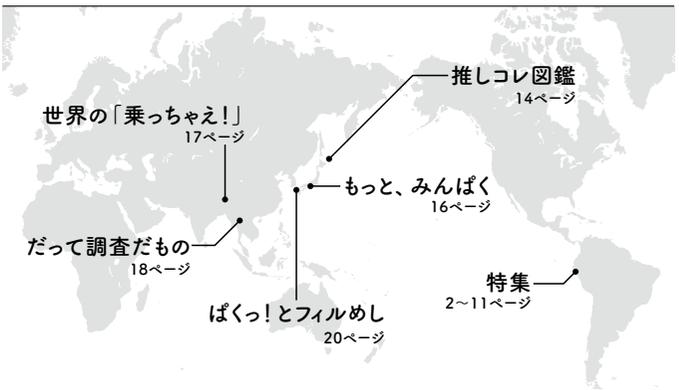
電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会

今月号の地図



編集後記

表紙写真でつば広のハットをかぶっているのがインディアナ・ジョーンズ……ではなく、関雄二新館長。ちゃんと顔が写っている写真がいいのでは、という意見もあった。だが、遠い過去に生きた人と交感し合うかのように、土中の骨に身をこめていた考古学者の真剣な現場姿を選んだ。文化に対する敬意をリーダーは背中中で語るのだ! 無造作に置かれたスプーンも、最善の注意を払って掘るためにとりそろえている小道具類の豊富なレポートを想像させる。あれっ、この日に限ってトレードマークのチェックシャツを着てないのは、洗濯中?

本号では下田昌克さんのすばらしい描き下ろしイラストにはじまり、千鳥アイヌのフジ

ル仮面、アイヌのカムイ、北タイのピー・ブーニャー(タイ族の人たちは精霊、妖怪、お化けとの近所づきあいがホント多い!)他、カミサまたちも新館長をお出迎え。桜咲く季節の華やかな号になった。これからもよろしくお願ひします。

(樫永真佐夫)



次号の予告 5月号

特集「薬草」(仮)

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 電話 06-6876-2151

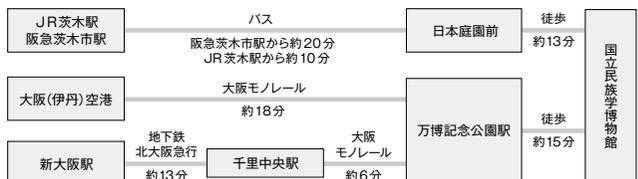
開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は直後の平日)
年末年始(12月28日~1月4日)

観覧料 一般 580円/大学生 250円/高校生以下 無料
特別展の観覧料金は、その都度、別に定めます。
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

主要ターミナルからのアクセス

本館までの交通手段は次の方法が便利です。



みんぱくホームページ

<https://www.minpaku.ac.jp/>

